



6月号

麻布幼稚園だより

港区立麻布幼稚園
園長 佐藤 幸子

豊かな体験を重ねていく

園長 佐藤 幸子

日差しが眩しく夏を感じる季節となりました。園庭の梅の実も日毎に大きくなってきました。子どもたちは、落ちている梅の実を拾って小さなバックに入れて大事そうに持ち歩いたり、お皿に乗せてごちそうにしたりしています。中には「桃なんだよ。ピンクになるの。今は緑」と楽しみにしながら見せてくれる子もいます。「いいにおだよ、嗅いでみて」「あ、桃の匂い」「まんごーみたい」と匂いをかいだり、触ったりしながらいろいろなことを感じて考えています。幼児期は体験をとおして様々なことを学んでいきます。

さて、今年度は、うめ組が梅を収穫し砂糖に漬けて梅ジュースを作りたいと思います。この体験を通して、子どもたちの中には新たな梅の価値が生まれることでしょうか。今年度の麻布幼稚園の経営方針の一つには、保護者の皆さまにも幼稚園生活を楽しんで欲しいということがあります。そこで、保護者の方にもぜひ一緒に梅仕事に関わっていただきたいと思えます。ボランティアを募集しますので、そのときにはぜひ、よろしく願いいたします。

先日は、地域の保育園、幼稚園の教職員が集まり、保幼小合同会議を行いました。文部科学省作成の『遊びは学び学びは遊び』の動画や小学校の一年生の授業の様子動画を見て互いの教育について話し合いました。小学校の先生からの提案の冒頭には「小学校は園の経験をリセットしない」とありました。「多種多様な活動を思い切り楽しんでください」とおっしゃっていました。楽しいと「もっとやりたい」と意欲が湧いて、「今度はこうしてみよう」と工夫が生まれます。これが、学びに向かう力につながります。さらに、着替え、持ち物の始末などの身辺自立、苦手なものも食べてみるなどの食育、予定を見て動く、身の回りの整理整頓などが大切です。小学校の机は小さいので、終わったものを片付けて、次のことを行うのですが、片付けが苦手だと、机の上にたくさんのもものが溢れて落ちてしまわなくなってしまうこともあるそうです。身辺の自立に向けて生活の一つひとつのことを丁寧にしていきたいですね。

保育園の先生との話し合いで、食育について、嫌いなものを食べてみようと呼ぶときに、その子がどうしたら食べてみようと思うかを探りながら援助しているという話がありました。幼稚園でも、一人ひとりの興味・関心を探りながら遊びの準備をしています。



梅の実



歩行訓練



お花を使ってジュースやさん



遊びは学び学びは遊び